



渡し船も楽し
第3日目の体の調子は抜群。昨夜は一寸酒を飲み過ぎたが、お陰でグッスリ。風呂もあってサッパリした夜だった。思い出しながら小屋の1軒主人佐伯さんと渡船場へ出る。渡し船は30分で9人乗り、くろよん丸と呼び船頭兼機関長は佐伯さんで無口のようなが、時刻も正確で真面目な方だ。山に来て 草甸の出発から青い静かな湖を渡るなんてほんとに楽しいもんだ。乗船時間は10分、船賃無料とは有難い……市井芳様

頂上に立つと、時々ガスが吹き上げ、峻険なスバリ、赤沢岳の東斜面へ吹き上げて、すまじい感じがする。全く鋭いヤセ尾根だ、そういえば、針ノ木岳を弓型に取り巻く北葛～船窪～不動岳への岩稜とキレットも仲々厳しく見える。ただ、対岸に眺められる五色ヶ原と……黒部湖が箱庭のように山に囲まれ静かに収まっている。先程登ってきた年輩の四人パーティーは市井さんで一杯始めた。谷さんの周囲に見える山々の説明に感心して聞いている。

針ノ木の昔戦で
今は楽しむ
人ぞ登りぬ

出合から峠へ
針ノ木谷出合へ着く。本や地図にはニ又となっているが、もう一本あって、十字峠となり、ここは三又である。左側へ登るようになって渡ると、小さな広場にしっかりと道標があり、確認して地図を見て、ここに間違いなしと話し合って登りに入る。最後の氷場まで沢はガレ、道もよくないが上部は案外に歩きよく、右の樹林帯へ入ると、美しい花が点々と咲き乱れ、峠に近づくと大斜面は、シロキンバイの黄一色が明るく、思わず声が出る……

針ノ木谷の一番良いところ 溪谷美漂う
岩石押し出し付近の崩壊は激しく、谷の流れも曲げてしまった。ここまでくると、沢も一流になり塊岩塊石が谷を埋め、激流の水を眺めているだけでも楽しいものだ。どこをどの石を飛び越えたら安全で、労少く越えさせるか、そればかり気を付けながらの大格闘の谷渡り。谷さん谷の斗い谷を行く生れはサル斗まへん。

休憩より分岐
沢を渡ってゴミのある築山を越えようと、「船窪小屋」の道標が朽ち落っている。谷さん道標を直して沢の傍に腰をおろす。「腹がへったなあー」ここで食べておかないと針ノ木は登れないぞと言いつつ食事をする。奥からパーティーの音がするが仲々こない。迷い込んでいたようだ。教えてやって訪導する。

川の河口針ノ木
朝の河原はそれほど暑くなく快適だ。テントが2つほど張ってあるが静かな様子。振り返ると、針ノ木の三角の頭が見えてきたので、谷さんカメラを出して写す。